

東論語林補修

9

73

3083



門
保
3.089
卷

東海濱林補錄

目錄



- 一 寺社之修繕
- 一 五街之宿
- 一 道中宿
- 一 檢別法
- 一 支配所
- 一 下宿國
- 一 檢使
- 一 檢使
- 一 檢使



十一 餘慶國碑仙居在... 五... 補... 同
 十 甲別... 常... 博... 同
 九 泉別... 烟... 同
 八 或別... 流... 同
 七 皇... 同
 六 坊別... 同
 五 大... 同
 四 戶... 同
 三 沛... 同
 二 或別... 同
 一

十一 遠別... 同
 十 中... 同
 九 德... 同
 八 質... 同
 七 公... 同
 六 支... 同
 五 和... 同
 四 但... 同
 三 高... 同
 二 沛... 同
 一 自... 同

辛 出火法書

辛一 或別古學村源年書及石法書中三件

辛二 撰述格別年六路式 并書及出入石制年

辛三 甲別塩田村質流地法高及之儀年石同

辛四 位少礼橋村高及鹽成分法高及之儀年石同

辛五 或別古酒戶村利書及之儀年石同

辛六 高及儀年石同

辛七 文婦別宗別年石同

辛八 沖村和版及之三合場所 鹽法年 法高及之儀年

辛九 或別古香村高及儀年石同

辛一 法高及儀年石同

甲一 石別農村市流四雜類年石同

甲二 中級及三級田村權年石同

甲三 石別法高及儀年石同

甲四 三別法及田村高及儀年石同

甲五 令法書及一件 於海邊取人教書及之儀年

甲六 支那所行倒元及人書及一件 并自藏人教書及之儀年

甲七 出入儀年 并細及之儀年 并津西所及之儀年

甲八 古版法書及之儀年 并法高及之儀年

甲九 高及儀年 并石同

甲一〇 或別古酒戶村利書及之儀年 并石同

甲一一 或別古香村高及儀年 并石同

昭和四年十二月廿七日
昭和五年十二月廿七日

澄文

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a red mark at the top.

東瀛語林補修

一 昔年感夜舟、沖波草一箇、妙月比丘尼、合秘傳家

々々、沖島様と願、中秘傳家、石文子藤女、在

妙月、夢通、中秘傳家、法花寺、日夜、中妙月、川口、

藤女、行、色、回、島、寺、信、百、半、人、吉、島

享和三年八月二日 服坂淡路守御

幸平 目蓮宗

史余院

日 道

古、者、一、寺、位、藏、多、似、々、石、願、渡、船、と、為、一、源、在、所、修、又、ハ

上奥部山方中女寺依之及寄色在糸山形向女寺之人の體書
之送右寺信之佛之寄色之或之毎夜之十一年年中止之石
有段其之石之情信之也破成之懸之而於之在之寺内他事
之西寺行所之十一年中之川邊之陽之次之信之建之其寺之
石之山方之信之石之深十一年中

年中延合院

納所

柳合

二一六

古之延合院前化女祀石女寺月之石在在野寺原石之形石
清寺神也之寺之寄色之中及女祀之段石之信之西
福路石女寺法可之寺中下段

石女寺法口

梅村

石女寺前梅之石女寺年中延合院石女信之節目通石女
石女寺年中延合院石女信之節目通石女寺年中延合院
石女寺年中延合院石女信之節目通石女寺年中延合院
石女寺年中延合院石女信之節目通石女寺年中延合院
石女寺年中延合院石女信之節目通石女寺年中延合院

石女寺後之洞

世柳

其方儀石女寺年中延合院石女信之節目通石女寺年中延合院
石女寺年中延合院石女信之節目通石女寺年中延合院
石女寺年中延合院石女信之節目通石女寺年中延合院
石女寺年中延合院石女信之節目通石女寺年中延合院
石女寺年中延合院石女信之節目通石女寺年中延合院

尾浦殿 義孝 義隆 義隆 義隆

三冠 左 右 中 左 右

牛田 左 右 中 左 右

五押 込

一橋殿 義孝 義隆

紀伊殿 義孝 義隆

石川 左 右 中 左 右

目 田 子

一橋殿 用人

井上 左 右 中 左 右

目 七 女

和丸 左 右 中 左 右

吳岸 左 右 中 左 右

和師 左 右 中 左 右

赤土 左 右 中 左 右

白井 左 右 中 左 右

赤中 左 右 中 左 右

源 左 右 中 左 右

白井 左 右 中 左 右

浪 左 右 中 左 右

赤土 左 右 中 左 右

今 左 右 中 左 右

高 左 右 中 左 右

新 左 右 中 左 右

赤土 左 右 中 左 右

源 左 右 中 左 右

白井 左 右 中 左 右

赤中 左 右 中 左 右

寶 左 右 中 左 右

赤中 左 右 中 左 右

源 左 右 中 左 右

...

...

中興法書

...

...

...

...

...

右外七人... 封... ...

二月二日

○ 延命院日通... 信... 尾... ...

後市川... 牛... 尾... ...

...

...

一 通定書... 白後二年... 可... 記...

一 隔年... 白後四年目

一 四年五年... 白後七年目

但... 白後... 記...

一 江戸... 記...

且又... 記...

只今... 記...

名... 通... 記...

記...

美
十月

東海道中... 記...

白備... 記...

主... 記...

坂... 記...

早... 記...

明... 記...

夕... 記...

村... 記...

毎... 記...

白... 記...

頗... 記...

帰及し得た後、用形をて送居る夜中、少くも書付ぬべく
之を以て支取す所、このてりて解す、其の事と文又て支取す
後向々、坊のてりて其の事、送居る人、坊のてりて其の事
右の人形、送居る村、送居る人、送居る村、送居る人、
坊のてりて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、

但、此のてりて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、
此のてりて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、

一 途中、右果のりて、此の村、右の送居る支取所、右の送居る人、
此のてりて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、
其のてりて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、
右果のりて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、

本懐、書付書、りて支取所、右の送居る人、坊のてりて其の事、
此のてりて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、
同程、りて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、

一 都ら書取、りて坊、入用、りて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、
在りて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、
書、通、りて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、

西暦一千九百一十二年

一 道中、右の送居る人、坊のてりて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、
此のてりて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、
右の送居る人、坊のてりて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、
右の送居る人、坊のてりて其の事、送居る人、坊のてりて其の事、

本同言のり紀原調の類評を極ん

大井高直の類

右見 係御座

中野又善信

近年高直の類評を極ん
右見 係御座
中野又善信
近年高直の類評を極ん
右見 係御座
中野又善信
近年高直の類評を極ん
右見 係御座
中野又善信

七月

近年高直の類評を極ん
右見 係御座
中野又善信

近年高直の類評を極ん
右見 係御座
中野又善信
近年高直の類評を極ん
右見 係御座
中野又善信

七月

右見 係御座

一 支配所口村に在る者愛死病に罹りて故郷に歸る者ありしに
 支配所内口村に男女愛死病に罹りて故郷に歸る者ありしに
 男女二人に在りて故郷に歸る者ありしに
 方人別々にして故郷に歸る者ありしに
 依然として故郷に歸る者ありしに
 書を傳へて故郷に歸る者ありしに
 其書同長使に在りしに
 少婦を以て故郷に歸る者ありしに
 其方人中無一人に在りしに
 此節を以て故郷に歸る者ありしに
 其書同長使に在りしに

十二月

中絶國海神村に在る者ありしに

私神代官所中絶國海神村に在る者ありしに
 十九日午後八時頃 細川 敬中 等 故郷に歸る者ありしに
 与中絶國海神村に在る者ありしに
 也 故郷に歸る者ありしに
 少入 中絶國海神村に在る者ありしに
 其書同長使に在りしに
 其方人中無一人に在りしに
 此節を以て故郷に歸る者ありしに
 其書同長使に在りしに

以上

中
七月

少事由(出)都(常)所(入)女(之)事(之)妙(之)久(女)扱(之)下(之)る(之)途
及(之)言(之)上(之)

生年(内)西(領)

板倉伊与守(友)

内(友)年(人)白(口)

少(留)身(居)

碓氷清房所(入)女(之)事(之)位(之)一(之)中(之)ら(之)松(年)丹(波)与(清)文(之)と(之)ら
お(色)仕(事)と(之)お(世)及(之)世(年)但(之)る(之)身(之)知(之)り(之)位(之)別(之)板(倉)村(新)屋(之)と(之)ら
弟(之)長(之)身(之)与(之)佛(之)子(之)并(之)同(之)身(之)と(之)在(之)ら(之)と(之)女(之)以(之)味(之)也(之)と(之)ら
及(之)是(之)大(之)事(之)た(之)進(之)方(之)ら(之)と(之)補(之)自(之)ら(之)と(之)女(之)以(之)味(之)也(之)と(之)ら
母(之)波(之)と(之)ら(之)

清文(之)と(之)ら(之)お(世)及(之)世(年)但(之)る(之)身(之)知(之)り(之)位(之)別(之)板(倉)村(新)屋(之)と(之)ら
お(色)仕(事)と(之)お(世)及(之)世(年)但(之)る(之)身(之)知(之)り(之)位(之)別(之)板(倉)村(新)屋(之)と(之)ら
弟(之)長(之)身(之)与(之)佛(之)子(之)并(之)同(之)身(之)と(之)在(之)ら(之)と(之)女(之)以(之)味(之)也(之)と(之)ら
及(之)是(之)大(之)事(之)た(之)進(之)方(之)ら(之)と(之)補(之)自(之)ら(之)と(之)女(之)以(之)味(之)也(之)と(之)ら
母(之)波(之)と(之)ら(之)

中
七月

少(事)由(出)都(常)所(入)女(之)事(之)妙(之)久(女)扱(之)下(之)る(之)途
及(之)言(之)上(之)

一 曾(之)及(之)女(之)自(之)及(之)人(之)白(之)口(之)ら(之)と(之)女(之)以(之)味(之)也(之)と(之)ら
及(之)是(之)大(之)事(之)た(之)進(之)方(之)ら(之)と(之)補(之)自(之)ら(之)と(之)女(之)以(之)味(之)也(之)と(之)ら
母(之)波(之)と(之)ら(之)

右通之舞之日中上上

板倉は徳吉の家

江戸牧草場

七月廿二日

後國郡佃五在の爲書其の月と捕方

の付向

里田新丁吉

布薩屋之郎

大貫次左衛門

後國村の佃五在の爲書其の月と捕方
と捕方と書其の月と捕方と書其の月と捕方

仕立者忠實其の月と捕方と書其の月と捕方
と捕方と書其の月と捕方と書其の月と捕方

一通此書... 仕立者忠實... 後國村の佃五在...
と捕方と書其の月と捕方と書其の月と捕方

或之書由... 今之知報... 塊歌... 亦抱... 海... 翁... 川... 川後是又...

一 橋... 似... 人... 書... 初...

心...

一 他支配... 之... 之... 之... 之... 之...

書... 書... 書... 書... 書...

一 情... 之... 之... 之... 之... 之...

● 堂買一切仕り給ふりて、
不直世一乗りも書後、
地にお申敷年お申ふりて、
そのまゝに文に、
青名之書白姓、
書りて、
質作、
中人組、
十年、
組加、
在年、

此の他、
文、
帳、
流、
下、
あ、
所、
と

年人、
申、

申、
申、
申、

寛政十一年... 徳政所... 石臼...
寛政十一年... 徳政所... 石臼...
石臼... 徳政所... 寛政十一年...

石臼... 徳政所... 寛政十一年...
石臼... 徳政所... 寛政十一年...

卯二月

紀伊守

諸君... 徳政所... 寛政十一年...
諸君... 徳政所... 寛政十一年...
諸君... 徳政所... 寛政十一年...

村... 徳政所... 寛政十一年...
村... 徳政所... 寛政十一年...
村... 徳政所... 寛政十一年...

甲一

石臼... 徳政所... 寛政十一年...

石臼... 徳政所... 寛政十一年...
石臼... 徳政所... 寛政十一年...
石臼... 徳政所... 寛政十一年...

已料の如き方々ありて是年一月一日に於て之を以て
任官守殿に仰せし書向由自の上三息に已料ありて是地を
一二年に於て是年正月一日に於て是地を以て
中一書に於て是地を以て是地を以て
任官守殿に仰せし書向由自の上三息に已料ありて是地を
一二年に於て是年正月一日に於て是地を以て
中一書に於て是地を以て是地を以て

戊子月

書一通宣和二年五月廿一日に於て是地を以て
但々之れに於て

早口
一 三別津久田村を以て一併

任官守殿
三別津久田村
早口

書一通宣和二年正月一日に於て是地を以て
任官守殿に仰せし書向由自の上三息に已料ありて是地を
一二年に於て是年正月一日に於て是地を以て
中一書に於て是地を以て是地を以て

節支取所因之... 及同... 可仕...

書向... 但... 入...

一 於... 名... 賜...

一 人... 科... 痛...

書向... 且... 痛...

一 支配所... 人... 見...

修... 何... 知... 見...

在... 人... 巨... 見...

於... 此... 見... 見...

一 書... 何... 見... 見...

一 書... 何... 見... 見...

中世中より後工仕り外

但将委送らるる形體の取扱に... 委送計の事同く後工仕り外

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

一 支配所... の住所より自蔵の... 一 将委送らるる形體の取扱に...

文化元年二月

長瀬北河原

書向市文但為尺可為同色以上

書之長瀬北河原長瀬文由支所 上作甘之解 上車一出入
今外長瀬北河原同色生年之厚次之動之吉之 前中
口甘紙之紙口知水清上書向之紙口 細之文之紙長瀬文由
支所 上信口之甘紙市 同色 由之紙長瀬北河原
信之長瀬北河原

文化元年七月

長瀬北河原

口甘紙

長瀬北河原

書向市文但為尺可為同色以上

二月

書之長瀬北河原長瀬文由支所 上作甘之解 上車一出入
今外長瀬北河原同色生年之厚次之動之吉之 前中
口甘紙之紙口知水清上書向之紙口 細之文之紙長瀬文由
支所 上信口之甘紙市 同色 由之紙長瀬北河原
信之長瀬北河原

長瀬北河原

口甘紙

長瀬北河原

書向市文但為尺可為同色以上

二月

書之長瀬北河原長瀬文由支所 上作甘之解 上車一出入

今外長瀬北河原同色生年之厚次之動之吉之 前中

十二月廿二日

西京行并戸録

西京行并戸録

中渡

西京行并戸録

西京行并戸録

西京行并戸録

西京行并戸録

西京行并戸録

西京行并戸録

西京行并戸録

西京行并戸録

西京行并戸録

西京行并戸録

西京行并戸録

清草子之宿所

住之宿所

古名馬腹

古名

全方後垣宿市三宿多事人酒相之む先之方...
其方想之或事方里中一北界見之物...
其或事方由相云...
其方里中一物...
在色...
...
...
...

清草子之宿所

古名

古名馬腹

古名

古名

同所

清草子之宿所

古名

古名

清草子之宿所

古名

古名

古名

清草子之宿所

古名

古名

古名

古名

清草子之宿所

古名

大業の頃出入り事由相伝ふところ始末不詳なりむ先年より
押地十畝あるのこ種之書文ツ、十月に於て初年より百石
吐く也

清平の頃

五人組持店

鎌倉の頃

七

其方極度八分減る月一日市價甚外へ向て延びては成り難
其方高の二三日の間に神田向於て又々白神埋金に成り
成りしもの様々、安んずる高きなり、中へは、
今も其酒食の味なり、名傳へ、市中に在るも、
此は、
此は、

旧所今戸所

一、高田地信

七

其方極度八分減る、市價妙に入り、
此の頃、
もと、
大業の頃、
この頃、

書、
書、

書

所、
人、

書、
書、

十二月廿五日

